

教皇はトルコで殺害された司祭の犠牲が宗教間対話に貢献するように期待。

バチカン市国、2006年2月8日 (ZENIT.org)。

この水曜日、ベネディクト16世は感動がこみ上げてくるのを隠すことなく、トルコで暗殺されたイタリア人司祭、アンドレア・サントーロ神父の犠牲が異なる宗教の信者同士の対話を促進することに期待すると述べられた。

水曜日の一般謁見の終わりに教皇は、トルコで働いていたこの司祭が先週の日曜日に自分の教会で祈っていたときに殺害された事件に触れられた。その司祭の名前が教皇の口から出たとき、パウロ6世講堂に参列していた信者たちの多くがいっせいに立ち上がって拍手しアンドレア神父への敬意を表した。その拍手はなかなか鳴り止まなかった。

教皇はこの暖かい行為に感謝し、千人近くの巡礼者たちに「ちょうど昨晚、私のもとにアンドレア神父様からのきれいな手紙が届きました。それは1月31日の日付で、黒海沿岸のトラブゾンという町にある聖マリア教会という小さな共同体の手紙が添付されていました。

昨晚その手紙を読んで深い感動を覚えました。と言うのは、その手紙はアンドレア神父の司祭的な魂を映し出したもので、神父様がいかに神と人々、特に小さな人々を愛していたかを浮き彫りにしていたからです。・・・。」と説明された。

教皇は、「キリストとその教会に神父が表した愛と忠実の証拠」としてこの手紙を聖座の新聞である『オッセルバトーレ・ロマーノ』に載せるように指示したとあかされた。その手紙文は Zenit によって翻訳され“ Documentación ” の欄に掲載されている。

「この手紙には、同小教区の婦人会の手紙も添付されていて、彼女たちは私を同地に招いてくれました」と教皇はさらに話された。教皇はすでに正教教会の総主教バルトロメ1世とトルコ政府から11月の末にトルコを訪問するように誘われていた。

ペトロの後継者は続けて「これらの婦人たちの手紙にはアンドレア・サントーロ神父の心にあった熱心と信仰と愛が見られます」と言われ、最後に「主が福音のこの静かで勇敢な魂をお受け入れになり、その命の犠牲が諸宗教間の対話と諸民族間の平和の促進に役立ちますように」と締めくくられた。

* * * * *

新刊紹介

1)『ゲーム脳の恐怖』森昭雄 生活人白書 036 NHK 出版 2005.3.5(第21刷)

テレビゲームが子ども達の脳を壊すことを、脳波データの解析で明らかにした書。著者の専門は脳神経科学。ゲーム脳とキレる人々との関連も説明している。最終章は、健全な脳を育てるためにできることに触れている。

2) 『脳内汚染』 岡田尊司
毎日新聞の書評

<http://www.mainichi-msn.co.jp/shakai/gakugei/news/20060115ddm015070135000c.html>